



しずおか 県民児協だより

第13号

平成19年2月1日発行

〔題字：静岡県知事 石川嘉延 書〕

編集発行 / 静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内
電話054-254-5244 FAX054-251-7508

市民すこやかふれあいまつり「ふれあいバザール」



(活動の様子)

三島市民生委員児童委員協議会

井上 愛子

恒例となっています。「市民すこやかふれあいまつり」は、毎年11月に福祉のイベントとして三島市で開催されています。

このイベントには三島市民児協も保護司会や更生保護女性会と共に「ふれあいバザール」として参加しており、今年で16回目となりました。

バザールには、その都度、地域のみなさまからの温かい応援があり、感謝しております。積まれた品物の一つひとつが心のこもった宝物です。

当日は、福祉総務課と社会福祉協議会の協力で体育館に品物が運び込まれ、バザールが設営されますが、一日中大賑わいです。早くも、この日を楽しみにしていた近所の方々やおじいちゃん、おばあちゃんたちがニコニコしながらゆっくりと近づいて来て「石鹸はにゃあかね？」と声をかけられ、私は何だかほっとしてしまいました。なんとも言えない郷土言葉の響き。このようなふれあいが大切な一日となるのですね。

バザールの収益はわずかではありますが、福祉の援助を必要としている方々のために少しでも役立てていただければとの思いで、収益は社会福祉協議会に寄附しております。これからもこの雰囲気を保ちながら、みんなで協力し、バザールを継続していきたいと思っております。

「災害時一人も見逃さない運動」推進についての考察

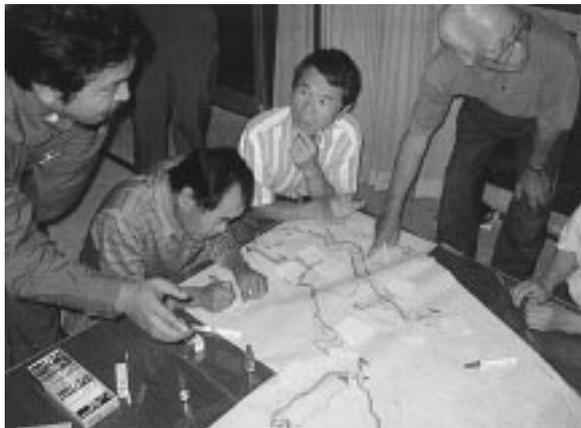
静岡県民生委員児童委員協議会 副会長 大場 義一

1 はじめに

民生委員制度創設90周年記念事業として、全国一斉活動「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」が実施されることとなりましたが、さて、何からどんな方法で取り組んだらよいのか、多くの課題がありすぎて戸惑うとともに、明日にも発生するかもしれないと言われている地域に住む者としては、考えるだけでも焦燥を覚える事柄ではありません。

2 役割分担を明確にする

全県児連から示されたステップ1からステップ3くらいまでは、従来からも折にふれて話し合ったりして、それなりの学習も繰り返していましたが、さらに一歩を進めて、ス



テップ4の関係機関や団体とのネットワークや防災機関や防災組織づくりとなると、その必要性はお互いに認識しながらも、取り組みに至っていないのが大方の現状ではないかと思えます。

今回の運動を契機として、民生委員がすすんで行政や社協との話し合



いを要請し、民生委員の災害時における役割分担を明確にしておくことが大切です。

私の町では、町の防災監、担当職員及び社協のボランティアコーディネーターを交えて話し合いを持ち、従来、地域の防災組織の中に入っていなかった民生委員を組織の一員と

して位置付けていただくこととなりました。このことによって、災害時の要援護者の把握作業にも一段とはずみがつき、地域の理解も向上するものと期待しています。

3 図上訓練で得た成果

地域の消防団からの呼び掛けがあり、地域住民の方々と一緒になって地図を使つての図上訓練（DIG研修）に参加しました。今まで頭の中だけで危険箇所や避難所までの道のりなどわかっていたつもりでしたが、地図に自分で記入することで、より明確になり、しかも身近な地域の人と話し合いながら作業をすることで二つ二つの事柄が具体的なものとなり、さらには日ごろあまり話し合うことがなかった人とも交流ができて、一石二鳥にも三鳥にも値するものでした。

今、一番頭を悩ます個人情報の問題も、膝をつき合わせて話をするこ

とで、心の通い合いが生まれ、解決に至る雰囲気が生まれてきます。

阪神淡路大震災や新潟中越地震の災害については、被災された方やボランティアとして救済活動に携わった人々から様々なお話を伺いしましたが、「大変なことだったんだなあ」とは思っても、実感とは程遠いものでした。この図上訓練をすることで、現実に近い事象となっ

て迫ってきますし、被災地の大変さがわかってきたようにも思います。

今まで、家具の転倒防止や食料の備蓄などにはかなりの気配りをしてきましたが、外側のことにも、もっと気配りが必要なのに気づいた次第です。

4 第75回全国民生委員児童委員

大会に参加して

徳島市において開催された第75回全国民生委員児童委員大会の活動交流集会の一つに、「民生委員・児童委

員発 災害時一人も見逃さない運動の展開に向けて」があり、大変貴重な御意見や実際に災害に遭われた方のお話を伺いできました。

その1 委員間の連絡は必要不可欠なことです。電話等は不通になる、使用できないことが多いので、「地理的連絡網」、すなわち歩いての連絡方法を考えておくことが必要である。

その2 防災マップは必ず作っておくことですが、できるかぎり地域



活動交流集会での発表者



会場の様子

に近い視点で作ることが大切です。また、できれば「我が家の防災のマップ」も作っておくとよい。

その3 いろいろな防災組織や団体との連携（ネットワーク）が必要であるが、とっさのときのリーダーや役割分担をしっかりと決めておくこと。

その4 災害は、いつも不測の出来事ではありますが、つい自分のところは大丈夫と思いがちになり、大きな災害に遭ってしまうことがある

ので、災害には「絶対安全」はないことを肝に銘じておくこと。

その5 集中豪雨や洪水の中での避難支援では、時間的な余裕は全くないことを念頭に置くこと。「まだ大丈夫」はない。

5 工夫をこらして取り組むこと

各団体や組織との連携を始めとして、行政等との協働は大切なことですが、ともすると「行政がちつとも情報をくれない」「ほかの団体が協力的でない」などの不満が聞こえてきますが、あまり他に頼りすぎないことが大切です。

地域でも「個人情報保護」をことさらに言い立てて、協力が得られないことが多いのが実情ではないかと思いますが、自らの工夫と努力で解決していきたいものです。

そのためには、日ごろの地道な活動によって地域に受入れてもらえるように努力することが大切です。

大会宣言

式典において、全国民生委員児童委員連合会副会長である天野会長が大会宣言を行いました。

次のとおり大会宣言が採択されましたので、御報告いたします。



児童や高齢者への虐待、高齢者の悪質商法被害や孤独死、そして子どもが被害に遭う犯罪などのいたましい事件が連日のように報じられています。このような事件が発生する背景には地域社会にあって、頼り頼られ、お互いがお互いを支え助け合う住民同士のつながりが希薄化し、悩みや不安を抱えたままにいる人びとが少なくないこと、また、核家族化の進行により世代間の交流や子どもたちと地域との関わりが少なくなってきたことも影響しています。

一方、今年も自然災害による多くの被害が発生しました。このような災害に備えた活動に取り組んでいくことも非常に重要です。今年度から民生委員制度創設90周年記念事業が「広げよう 地域に根ざした 思いやり」のスローガンのもとで本格的にスタートしました。私たち民生委員・児童委員は平成19年度に民生委員制度創設90周年を迎えるにあたり、「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」への取り組みを通して、地域住民や関係機関と連携・協働した安全で安心なまちづくりをすすめることをめざすこととなりました。

私たち民生委員・児童委員は人権を護り、常に住民の立場に立って相談・支援活動を展開していくなかで、地域社会での支え合う関係を築くことが期待されています。そのためには、ここ徳島県で実践されてきたかつての「子ども民生委員活動」の歴史に学び、研さんを通して、地域福祉活動を進めていくことが必要です。

これからも、誰もがその人らしい自立した暮らしを地域の中で営むことができるようにしていくため、次のとおり宣言します。

- 一、地域社会で孤立し深刻な問題を抱えている個人や世帯・子育て家庭等を発見し、支援していく活動の強化に取り組みます。
- 一、「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」を通して、民生委員・児童委員の役割と活動内容を一層広く国民や社会にアピールしていきます。
- 一、基本的な人権についての理解を深め、個人情報取り扱い方など常に自らの活動を点検し、住民との信頼関係に基づく活動をすすめます。
- 一、高齢者や障がい者、若い親と子だけの世帯、また、子どもたちが地域と関わっていく機会・場を提供し、交流を深めることに取り組みます。

平成18年10月26日

第75回全国民生委員児童委員大会
(開催地 徳島県)



“見つけよう健康、感じよう元気” ふじのくにから健康賛歌

57万7千人が参加！ねんりんピック静岡2006開催 -

60歳以上の方々のスポーツと文化の祭典である「ねんりんピック静岡2006（第19回全国健康福祉祭しずおか大会）」は、去る10月28日（土）から31日（火）までの4日間、全国から約11,000人の選手団を迎え、県内18市町での卓球・ゲートボール・囲碁など23種目の交流大会をはじめ、エコパでの総合開会式やツインメッセ静岡などでの健康や生きがいづくりに関する様々なイベントを開催。4日間で延べ57万7,000人の皆さんの参加を得て、無事終了することができました。

民生委員・児童委員の皆様方には、ボランティアや総合開会式などに多数御参加いただきましたことに心から御礼申し上げます。

しずおか大会では、「奏でよう ふじのくにから 健康賛歌」のテーマのもと、幅広い世代の人達が元気に活躍するシニア世代と交流する機会を多く設け、健康で活躍する素晴らしさを実感し、健康や生きがいづくりの新たな活動のきっかけづくりとなる大会を目指しました。

常陸宮同妃両殿下御臨席のもと約32,000人が参加した総合開会式では、世代間交流の一環として、一つの小学校が一つの選手団を応援する「一校一県交流運動（ねんりんピックキッズサポーター）」を展開。参加した小学校では、あらかじめ応援する都道府県・政令指定都市の自然、文化、歴史などの学習をはじめ、応援用の横断幕製作や選手団との文通が行われました。

そして、総合開会式当日には、県内68小学校から約3,700人が応援にかけつけ、選手団との入場行進や、選手団紹介のアナウンス、選手団席での交流など、今までにない華やかな開会式となりました。これら運動を通じて子どもたちとシニア世代の方々が、地域や世代を超えた交流が図られたものと考えています。

交流大会では、一般参加種目を多く設定し、多くの県民の皆さんが参加。地元選手の活躍もあり、大いに盛り上がる中、選手同士の交流はもとより、世代を超えた幅広い交流の輪が広がりました。

各種のイベントでは、大会を契機に様々な取組みが継続されることを念頭に、趣味を見つけ、ライフスタイルを考えるイベントなど体験型イベントを多く取り入れ、ツインメッセ会場では「見つけよう健康、感じよう元気」というように会場ごとにコンセプトを設定いたしました。カルチャーワークショップやオヤジバンドコンテスト、昭和の遊びやニュースポーツなど、三世代で一緒に楽しむ姿が多く見受けられたのもこの大会の特徴の一つでした。

最終日の総合閉会式では、次期開催の茨城県へ大会旗が引き継がれ大会の幕を閉じました。



横断幕を手に選手団と交流するキッズサポーター



キッズサポーターと行進する本県手団



地元選手が大活躍した交流大会

大会を通じて、子どもから大人まで各世代の多くの県民の皆さんが、ボランティア、出演者、大会関係者として、県民総参加で大会を支え、盛り上げていただきました。この成功も、ひとえに、静岡県民生委員児童委員協議会の皆様方をはじめ、多くの県民の皆さん方の御理解と御協力の賜であると深く感謝申し上げます。

結びに、貴協議会の今後の益々の御発展と皆様方の御活躍・御健勝を心から祈念申し上げます。

ねんりんピック静岡2006実行委員会 事務局長 松浦 孝治

ひろば

地域福祉と災害時要援護者の支援



富士市民生委員児童委員協議会

小長谷 秀夫

平成18年度スタートの富士市地域福祉計画及び地域福祉活動計画が策定され、単位民児協の地区ごとには、地域福祉推進の実践計画も作成されています。この中の岩松北地区では、今後の取り組みテーマの一つに「助けてほしい人マップ」づくりがあります。

そのために、地区民児協では心身障害者の関係団体と懇談し、特に、障害者の障害の度合いや症状をどの程度把握し、その情報を地域で共有化するための仕組みのことも、個人情報保護やプライバシーを含む問題も話し合いました。

また、心身障害者の関係団体が「地域生活と災害時の避難場所」アンケート調査を実施しましたが、その資料提供を受け、心身障害者が奇声を発したり、パニックなどで避難場所での共同生活が難しい人が51%もいることやベットと一緒に避難したい人が13%など、思いもよらぬ問題点がたくさんあることに気づかされました。

そこで、民生委員・児童委員として各町内会単位に組織されている自主防災会へ積極的に参画し、連携していくことにしました。このことから、向こう三軒両隣でふだんからあいさつをして顔見知りになっておくこと、担当地区の住民と良い人間関係を日ごろから築いていくことで、災害時にも活動ができることだと思っています。

虐待通告2%の現状



沼津市民生委員児童委員協議会

石川 容右

幼い子どもが実母や実父による虐待で死亡する事件が続いている。痛ましい事件が起きるたびに、事前に防げなかったものかと私たち民生委員・児童委員も呻吟している。

厚生労働省の福祉行政報告によると、平成16年度児童相談所に寄せられた虐待通告件数は3万件を突破した。そのうち家族からの通告16%、近隣知人15%、学校15%と全体の約半数を占めている中で、民生委員・児童委員からの通告はわずか2%である。私たちは忙しさにかまけて、あるいは高齢者支援に目を奪われて、子育て真っ只中の若い親への声掛けや支援、訪問や相談等を怠ってはいないだろうか。虐待はいつでも、どこでも起きるといふ認識を持ってアンテナを高くし、情報収集をする必要がある。

児童虐待防止法が改正され、私たちに早期発見と通告が強く求められるようになった。第5条に「学校、児童福祉施設、病院その他児童の福祉に業務上関係のある団体及び学校の教職員、児童福祉施設の職員、医師、保健師、弁護士その他児童の福祉に職務上関係のある者は、児童虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、児童虐待の早期発見に努めなければならない」と記載されている。この改正を機会に、虐待通告2%の低率を返上したいものである。

災害時一人も見逃さないために



島田市民生委員児童委員協議会

小澤 幸弘

民生委員制度創設90周年記念事業の全国一斉活動、災害時に一人も見逃さない運動「のスローガンのもと、島田市民児協においても、様々な取り組みを推進しています。地域の状況について「足」で情報を集め、把握と見守りに努めています。

島田市から「災害時要援護者登録制度」への登録を呼び掛けたところ、3,500人の対象者のうち、現在、1,080人が登録しています。家具等転倒防止事業に協力し、高齢者世帯へ訪問しました。

また、島田市民児協では、ひとり暮らし高齢者にホイッスルキーライトを900個、配付しました。この笛の配付を行うことにより、高齢者の防災意識を高めることができたと思います。

しかし、自主防災会にもっと民生委員が加わる必要性を強く感じています。民生委員が積極的に自主防災会の組織に入り、役割を明確にしていくことが、大切です。そして、自主防災会と民生委員のつながりを強化していきたいと思えます。

日常の活動の積み重ねが災害への「備え」につながることを認識しています。今後、関係団体と協力、連携しながら、安全なまちづくりのために民生委員活動を続けていきたいと思えます。

民生委員活動雑感



牧之原市民生委員児童委員協議会

橋山 昭美

10月28日、エコパで開催された「第19回全国健康福祉祭しずおか大会」の総合開会式で観客席から拍手を送る機会を得ました。全国から集まった1万人を超す選手の方々の姿に、地域との交流を通じ、元気な心身づくりに日々御精進しているなあと強く心を動かされました。

少子高齢化と呼ばれてから、年を追うことに身体の動きに衰えが見られ、活動範囲を狭められている高齢者が増えつつあります。しかし、常にプラス思考で生活し、日々の仕事、趣味、旅行と活発な活動を展開している高齢者もいます。「ねんりんピック」に出場しなくても、生きがいを持っていきいきと暮らしてほしいと願わずにはいられません。

最近、家族の絆が薄れかけ、高齢者の楽しみを奪う仕打ちや子どもの成長を阻害する親の言動などを多く見聞するようになってきました。また、障害者に対して法令改正のたびに、障害者やその家族の負担を増やすようなことが多く、生活不安を感じさせています。本当の福祉とはどういうものか、生活弱者を守る手だては講じられているだろうか、個人情報保護法の問題等々、民生委員活動の複雑さに悩まされる今日このごろです。

災害ボランティアコーディネーター

養成講座に参加して



掛川市民生委員児童委員協議会

川隅 新平

阪神・淡路大震災以降、ボランティアが被災地を支える大きな力として定着しています。その活動が円滑に進められ、何よりも被災地の人々にとって本当に必要であることが求められています。

この講座では、災害ボランティアコーディネーターの役割などの基礎を学びます。これまで私は、ボランティアには大層な役割があると思っていました。この講座への参加については、掛川市民児協の専門部に呼び掛けました。が同意を得られず、結局、私の所属する地区民児協の数人に呼び掛けて参加しました。また、私はパネルディスカッションのパネリストを仰せつかり、いろいろと考えた末、民生委員制度創設90周年記念事業全国一斉活動の「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」の実施要綱を課題として、発表することに決めました。この実施要綱に沿って発表内容の原案を作成しました。

平成16年の新潟中越地震を始め、台風による水害、高潮等の災害など、各地で自然災害による大きな被害が発生しました。こうした自然災害時に自力で避難、移動が困難な高齢者、障害者の方々に対する近隣住民による災害時の安否確認や避難支援は、まさに生死を分けた重要な支援活動であるということが教訓として生かされています。

民生委員制度創設90周年記念事業である「民生委員・児童委員発 災害時一人も見逃さない運動」に全国22万7千人の民生委員・児童委員が一斉に取り組み、活動を推進していることを発表し、3日間の講座を修了しました。

「水と緑と太陽」三つそろったわが町



浜松市民生委員児童委員協議会

敦賀 道耕

平成19年4月の政令指定都市移行に伴い、現在は組織の編成替え等でまごまごしている状況です。「環境と共生するクラスター（ぶどうの房）型政令指定都市」とのことです。

私たちの地区三ヶ日は、静岡県の西端、浜名湖の北西部に位置し、穏やかにきらめく猪鼻湖をぐるりと囲み込むように広がる静かなまちです。豊かな自然と温暖な気候に恵まれ、古くから「みかんの里」として全国に知られています。4、574世帯、15、858人、人口は減少のみで、高齢化率は25・56%です（平成18年4月現在）。

三ヶ日町は、その房の一番下にかろうじてぶら下がっています。しかし、昨今の新聞紙上等で報道されるような事例には事欠きません。三世代同居とは言いながら、三世代バラバラな家庭もみられるようです。少子高齢化や障害児者の地域支援が民児協の福祉課題となっています。

年間を通じ、温暖な気候に恵まれ、湖と山とに囲まれた美しいまち、誰もが住んでみたいと思えるふるさとにしたいものです。

平成18年度 叙勲・大会等表彰の紹介

叙勲



（平成18年4月29日付）

青島 守邦 （静岡市）



（平成18年4月29日付）

井堀 てる代 （熱海市）

島本 尚史 （沼津市）



（平成18年11月3日付）

加藤 政江 （富士市）

褒章



（平成18年4月29日付）

岡村 カツ （静岡市）



（平成18年11月3日付）

小杉 光夫 （静岡市）

厚生労働大臣表彰

（平成18年11月10日付）

朝原 鈴夫 （由比町）

大場 義一 （森町）

尾崎 壽賀子 （磐田市）

小澤 幸弘 （島田市）

中西 武子 （富士市）

蘆澤 鐵雄 （静岡市）

江川 宮子 （静岡市）

岡村 欽一 （静岡市）

永井 容子 （静岡市）

花村 庄平 （静岡市）

静岡県知事表彰

（平成18年11月3日付）

青島 守邦 （静岡市）

川口 フサ子 （沼津市）

木村 喜代子 （熱海市）

長澤 歌子 （沼津市）

中村 雅恵 （富士市）

南荘 喜久子 （静岡市）

安井 宗晋 （浜松市）

渡邊 良子 （富士市）

（2）静岡県健康福祉大会

（平成18年10月24日付）

後藤 亨昌 （沼津市）

佐藤 昭良 （沼津市）

田中 良観 （三島市）

全国社会福祉協議会会長表彰

（平成18年11月10日付）

松島 初雄 （浜松市）

大鷲 利治 （浜松市）

竹内 富一 （浜松市）

丸山 進 （島田市）

伴 千鶴子 （湖西市）

小原 恵子 （袋井市）

浅沼 直明 （沼津市）

白井 幸雄 （湖西市）

全国民生委員児童連合会会長表彰

（平成18年10月26日付）

（1）優良民生委員児童委員協議会表彰

浜松市浜松第23地区民生委員児童委員協議会

（2）永年勤続民生委員・児童委員表彰

大川 観暁 （熱海市）

中込 恭司 （富士市）

井上 夏代 （富士市）

田形 登美江 （静岡市）

近藤 壽美子 （静岡市）

坂井 力雄 （静岡市）

坂田 榮 （新居町）

佃 玲子 （新居町）

事務局からのお知らせ

今後の予定

平成18年度専門部会

2月19日（グランシップ・静岡市）

平成19年度総会

6月4日（グランシップ・静岡市）

編集後記

昔から、「清水の舞台から飛び降りる覚悟で」云々と言われてきましたが、わが町の高齢者福祉部会では、まさにこれを実際に敢行してしまいました。というのは、たった一度だけ手ほどきを受けただけの「手品」を高齢者の前で堂々と演じてしまったのです。それも一度ならず、何と二度三度とやってのけたのです。しかも驚くことに、回を追うごとに口も手もよく動いて、それらしくなっていくのには、またまたびっくりです。

「なせばなる」とも言われますが、大変な勇気が要ることですし、みんなと一緒に楽しくもつという心意気であつたらうと思います。

ますます高齢社会の進む中、自らの老後のためにも何か趣味を見つけて、挑戦してみたいかがでしょうか。

民児協だよりも号を重ねて「第13号」となりましたが、まだ一度も自主的な投稿がありません。御意見でも、趣味のことも、地域のニュースでも、まさに「清水の舞台から飛び」勢いで挑戦してみてください。楽しみにお待ちしております。

（大）